

日語聽覺形容詞探究

賴 錦 雀

東吳大學日本語文學系教授

中文摘要

聽覺事實上是由於音波震動鼓膜所引發的一種感覺。然而，一般都認為聲音是外界物品所發出的，因此形容聲音的日語基本聽覺形容並不多。但是，在實際的語言生活當中，有關修飾聲音的日語形容詞用例有很多。這些形容詞大部分是由表次元、新舊、視覺、觸覺、心理等其他種類形容詞的引申義用法或聯感用法所演變出來的。根據本研究分析結果顯示，日語表聲音形容詞的語義有以下特徵：1、引申義發生的方向不對稱 2、聯感語義擴張受限制 3、具排他性及自我限制性 4、具模糊性 5、有性別差異現象。

關鍵詞：日語、聲音、聽覺形容詞、引申義、聯感現象、排他性、模糊性、性別差異

音声を表す日本語形容詞

頼 錦 雀

東呉大学日本語文学系教授

要 旨

一般的には、聴覚は、実際には鼓膜が振動しているのであるが、そうとは認知せず、外界にある物から音が発しているように認知する、外界投射の遠隔感覚であるので、その働き方を表す形容詞が未発達である、といわれる。しかし、言語生活では、日本語における音声がい러ろろな形容詞で表されている。それは、殆ど他の部類の形容詞、例えば、次元、新古、視覚、触覚、心理などを表す形容詞の派生義による転用か共感覚的比喩によるものである。本稿では、実例分析を通して音声を表す日本語形容詞の特徴を次のようにまとめた。①転用方向の不均衡、②感覚拡張の制限、③排他志向と自己規制志向、④ファジー性、⑤性差。

キーワード：日本語、音声、聴覚形容詞、転用、共感覚、排他志向、ファジー性、性差

A Study of the Japanese Hearing Adjectives

Lai, Jiin-Chiueh

Professor of Department of Japanese Language and Culture,
Soochow University

Abstract

This paper is a report of the Japanese hearing adjectives.

There are not many basic hearing adjectives in Japanese. But, a lot of the other kinds of adjectives are used as hearing adjectives in Japanese. For example, the dimension adjectives, the sigh adjectives, the taste adjectives, and, the touch adjectives.

There are many meaning- feature of the Japanese hearing adjectives:

1. unbalance 2. limitation 3. inclusiveness 4. fuzziness 5. difference of gender

Key words : Japanese, sound, the hearing adjectives, additional meaning, Synaesthesia,
limitation, fuzziness, gender

音声を表す日本語形容詞

頼 錦 雀

東呉大学日本語文学系教授

1、はじめに

『分類語彙表』(国立国語研究所資料集 6)「3.503 音」項に収録される、音声に関する日本語は 187 語あるが、そのうち、形容詞は「甲高い けたたましい 高い 低い やかましい うるさい 騒がしい 騒々しい」の 8 語しかない。また、聴覚は、実際には鼓膜が振動しているのであるが、そうとは認知せず、外界にある物から音が発しているように認知する、外界投射の遠隔感覚であるので、その働き方を表す形容詞が未発達である、といわれる¹。しかし、日常生活では日本語における音声は次の例で見るように、いろいろな形容詞で表されている²。

- (1) 女中は、忠平から電話でそういわれていたものか、なかなか食事をもってこなかった。七時になると、廊下を歩いてくるせわしい足音がした。(水上勉「越前竹人形」)
- (2) そのとき、向うからかわいい足音がして、「おばちゃま。(中略) どうしてお会いにならないの」と無心に少女はいう。(田辺聖子「新源氏物語(若紫)」)
- (3) すぐ後ろで川は、清々しい音を立てて流れている。(www.rfc.or.jp)
- (4) ヒュルルン ルン/原っぱの方からこっちの方に/すずしい音 とってもいい音 (www.ota-yukigaya-e.ed.jp)

1 国広(1989: 30-31) による。

2 作者と作品名しか表示していない用例はすべて『新潮文庫の 100 冊』からの引用である。以下同。

(5) 締めが甘い蛇口の水滴の音だけが、暗闇の控え室に響き渡っていた。わずらわしい音ではなかった。(www3.ic-net.or.jp)

(6) 太陽に少しだけ雲がかかり、窪地が陰ると、今まで聞えなかった虫が暑くるしい鳴き声をあちこちの叢の中からあげはじめた。(遠藤周作「沈黙」)

本稿は、用例を通して日本語における音声を表す形容詞（以下、聴覚形容詞³と呼ぶことにする）を考察、分析したいものである。ある音声を表す名詞（以下、音声名詞と呼ぶことにする）に対してどんな形容詞が選ばれるのか、そして、ある音声に対して形容詞が選ばれるとき、その選択基準は何であろうか、このような問題は、日本語学研究の立場から見ても日本語教育研究の立場から見ても検討すべきものである。

2、聴覚形容詞の分類

この節では、音声名詞と聴覚形容詞との結びつきにより、音声名詞と聴覚形容詞との共起における選択要因について考えてみたい。本研究の考察によれば、日本語における音声を表す聴覚形容詞は、性質によって次のように分類される。イメージから見れば、中間的評価の語もプラス評価の語もマイナス評価の語も見られる。そして、中間的評価のものはまた、次元、新古、視覚、触覚、心理というように下位分類される⁴。プラス的评价のものはまた、視覚、触覚、心理というように下位分類される。マイナス的评价のものはまた、音質、聴力、次元、視覚、触覚、味覚、全身の感覚、心理というように下位分類される。例を見てみよう⁵。

3 「耳聡い」「耳が遠い」「耳が早い」なども一種の聴覚形容詞であるが、直接音声を表すのではなく、聴力を表すものなので、ここでは考察対象から省くことにする。

4 形容詞の分類基準は『分類語彙表』（国立国語研究所資料集 6）を参考にする。

5 用例は web サイト、飛田良文・浅田秀子『現代日本語形容詞用法辞典』、中村明『感覚表現辞典』、『新潮文庫の 100 冊 CD-ROM 版』による。

(一) 中間的評価のもの

- ①次元：大きい声 大きい音 小さい声 小さい音 でかい声 でっかい声
甲高い声 高い声 高い音 低い声 近い低い深い声 低い音の響き
深い声 遠い声 巾広い声 低くぶあつい笑い声 太い声 細い声
短かい声 近い音 遠い音
- ②新古：新しい声
- ③視覚：生々しい声 幼い声 若い声 若々しい声 生若い声 黄色い声
タイプライターの速い音 まるっこい音 鋭い声 鋭い音 鈍い音
- ④触覚：ねばっこい声で 重い音 重々しい音 重たい音 重々しい声
軽い笑い声 軽い音 堅い音 力強い声 強い声 強い音
激しい声 激しい音
- ⑤心理：さりげない声 なにげない声 忍耐強い声 ものらしい声
用心深い声 遠慮ぶかい音 あわただしい小さな足音 凄い声
ものすごい声 すごい音

(二) プラス評価

- ①視覚：明るい声 明るい音 美しい声 美しい音色 細い美しい音
若々しい声 みずみずしい音
- ②味覚：甘い声 甘い調べ 渋い声 渋い音
- ③触覚：暖かい声 涼しい声 風鈴の涼しい音 柔らかい声 柔かい音
- ④心理：あどけない声 いい声 可愛い声 可愛らしい声 快い声 親しい声
清い声 すばらしい声 たくましい声 懐かしい声 媚めかしい声
物々しい声 やさしい声 よどみのない声 喜ばしい声 勇ましい音
男らしい音 小気味よい音 心地良い音 正しい音 頼もしい音
なつかしい音 優しい音 面白い音色 趣きふかい音楽 快い音楽
楽しい音楽

(三) マイナス評価

①音質：けたたましい声 けたたましい音 やかましい声 やかましい音

うるさい音 姦ましい音 さわがしい音楽 騒々しい響き

②次元：馬鹿でかい声 野太い声 野太い音 かぼそい声

③視覚：暗い声 ほこりっぽい音

④触覚：硬い声 冷たい声 冷たい音 むず痒い声

厚ぼったく重い声 弱い声 弱々しい声 弱々しい音楽 荒い声

荒々しい声 荒っぽい口調

⑤味覚：苦い声 辛い音 塩辛い声 甘ったるい声

⑥全身の感覚：だるい声 苦しい声 暑くるしい声 重苦しい音

⑦心理：哀調ふかい声 甘ったるい声 あわただしい声 哀れっぽい声

厳しい声 陰気くさい声 うっとうしい声 えらい声 押しつけがましい声

怖ろしい声 覚束ない声 悲しい声 ぎごちない声

きつい声 気味わるい声 心許ない声 すさまじい声 切ない声 せ

わしない声 素気ない声 途方もない声 情けない声 熱っぽい声

批評がましい声 物憂い声 ようじゃない声 わびしい声

あわただしい音 荒あらしい音 怖しい音 おぞましい音

悲しい音楽 聞き苦しい音 きびしい音 寂しい音 さみしい音

しつこいしずくの音 俗っぽい音 憎らしい音 空しい音 物憂い音

3、聴覚形容詞が表す音声の性質

上述の聴覚形容詞の分類を見て分かるように、日本語における音声名詞は音質のほか、次元、新古、視覚、触覚、味覚、全身の感覚、心理などの側面から取り上げられることがある。この節では聴覚形容詞が表す音声の各意味側面について考察

してみたい。

3.1.音質

- (7) そこは荒地野菊の生い茂ったあいだに紙屑や空罎の捨てたままになっている場所で、忍び込んだ子供たちがキャッチボールをしていた。そのけたたましい声が、破れた硝子ごしに埃っぽい机の列の眺められる放課後の教室の人気のなさを際立たせている。(三島由紀夫「金閣寺」)
- (8) これにより “やかましい音・いやな音” を“心地良い音・やさしい音”へと改善することが可能になります。(www.onosokki.co.jp)
- (9) 猫は少し静かにしていると思うと、又急に苛立ち、ぎゃあぎゃああと変な声を出して暴れた。がりがりと箱を搔く音がうるさい。(志賀直哉「濠端の住まい」)
- (10) 鐘が鳴り出した。カラン、カラン、カラン、カラン——叫ぶように中空にあがる姦ましい音であった。(大岡昇平「野火」)
- (11) 《獲物》の両足首には猪鬃の鉄ぐさがはめこまれていて、それが騒がしい音をたてていた。(大江健三郎「飼育」)
- (12) しばらく歩くと、行く手から、岩壁に反響する騒々しい笑い声が聞こえて ... (www.playonline.com)

例 7-12 で見たように、音質そのものを表す日本語の聴覚形容詞には「けたたましい やかましい うるさい 姦ましい 騒がしい 騒々しい」などがあるが、それらはすべてマイナスイメージのものである。

3.2 次元

一般に次元形容詞と呼ばれるのは「長い 短い 高い 低い 深い 浅い 遠い 近い 広い 狭い 厚い 薄い 太い 細い 大きい 小さい」である。それから、

その派生語の「はば広い 野太い か細い」などもその同類である。こういう次元形容詞が聴覚形容詞として働く例が考察される（例 13-32 を参照されたい）。

- (13) するとどよめきに沸き返りまたすーっと収まってゆく場内の推移が、なにか一つの長い音楽のなかで起ることのように私の心に写りはじめた。(梶井基次郎「器楽的幻覚」)
- (14) そこで、私はこの身動きしない体に、なお四たび撃ちこんだ。弾丸は深くくい入ったが、そうとも見えなかった。それは私が不幸のとびらをたたいた、四つの短い音にも似ていた。(カミュ「異邦人」)
- (15) ケーンケーンとひとときわ高い鳴き声とバタバタと重そうな羽音でびっくりさせるキジ。(mytown.asahi.com)
- (16) 象徴的な手法も鮮やかで、暴力的な衝動を暗示させる場面にはフクロウの啼き声、少年の性的願望とその抑制を感じさせる場面には、少女の甲高【かんだか】い笑い声がこだまする、という具合だ。(www.hico.jp)
- (17) 僕は大学の文学部にいましたけど、と彼は低く細い声でいった。(大江健三郎「他人の足」)
- (18) それは源氏が耳にした女の声のうちで、もっとも深い、やさしい声だった。(田辺聖子「新源氏物語（葵）」)
- (19) 一般に声が浅いというのは、たとえば平べったい声とか、喉っぽい声、などを表現することが多く、声楽の世界では、悪い状態を指すことが多いのです。(www.musicac.org)
- (20) 火口壁に衝突して起る音、雪面を摩擦して起る音、遠い音、近い音、あらゆる風の音の中に混って、空高くから聞えて来る音があった。(新田次郎「孤高の人」)
- (21) 「昴」は旋律の美しい曲ですが、ここでは、広い声の重なりを楽しむことができました。(http://www5d.biglobe.ne.jp)
- (22) ぎらぎらのお日さまが東の山をのぼりました。シグナルシグナレスはぱっ

と桃色に映えました。いきなり大きな巾広い声がそこら中にはびこりました。(宮沢賢治「シグナルとシグナレス」)

- (23) 鼻根部、上顎部に声を当てる練習は、声帯の内筋を活性化させる最適な方法として知られていますが、鼻根に当てる練習をやり過ぎると、鼻にかかった狭い声になり、また高い音域への移行ができない声になってしまいますので、やり過ぎないよう注意が必要です。

(www.kcc.zaq.ne.jp)

- (24) 石井さんは「男と女は当然声質が違う。男性の厚い声に、女性のきれいな声がかぶさったときのハーモニーの深みは何物にも代え難い」と、混声合唱の魅力を話す。(mytown.asahi.com)

- (25) 秋の朝鮮とそこで行なわれている戦争をそれはうつした。(中略) 戦車が数台ならんでとまっている野原の中央の道を朝鮮人の捕虜たちが腕を頭のうしろにくんで、無気力に頭をたれたまま群をなしてやってくる。かれらの一人がきゅうくつそうに背を屈めて放尿するのをぶあいそうな外国兵がつきそって見はっている。観客席の低くぶあつい笑い声。(大江健三郎「戦いの今日」)

- (26) 彼の魅力はその「軽妙洒脱」さ。なんというか、その「肩の力の抜け具合」が絶妙なのです。決して声域も広くないし、声量もない。どちらかというと弱い声。口先だけで歌ってるような薄い声。なのに声量ブリブリのそこいらの歌い手を軽く凌ぐその魅力。(http://www.satonao.com)

- (27) そこへ梯子をおりて来た母親らしいのが闕ぎわにぺったり坐ると東北訛の太い声で、「いらっしゃいまし。」(石川淳「葦手」)

- (28) そのとき急に私が鳥になり、私の咽喉から鳥の啼声が洩れたかのように、尺八が野太い音の一声をひびかせた。(三島由紀夫「金閣寺」)

- (29) ことさらに、消え入るような細い声で返事しました。(太宰治「人間失格」)

- (30) 主将の青山は体調を崩し、布団の上であえいでいた。かゆものどを通らな

い状態だった。「イチゴなら食べられるかもしれません」。青山はか細い声
で言った。(http://mytown.asahi.com)

- (31) もともと無口のほうな（と自分では思っている）私でも、大きい声を出し
たい気分のあるときがある。大声で歌を歌うのは気持ちいい。

(mytown.asahi.com)

- (32) 僕はぐったりして寝椅子の背に頭を倒し、小さい音をたてた。(大江健三郎
「他人の足」)

各次元形容詞は次のように違っている。「長い 短い 高い 低い 深い 浅い
遠い 近い」は線的次元（糸、山、川、距離などに用いられるもの）で、「広い 狭
い」は面的次元（庭などに用いられるもの）で、「厚い 薄い 太い 細い」は立体
的次元（本、腕などに用いられるもの）で、「大きい 小さい」は前述した各次元の
どれにも用いられるものである。そして、「高い 低い 深い 浅い 遠い 近い」
は基準からの方向が注目焦点になるのに対して、「長い 短い 広い 狭い 厚い
薄い 太い 細い」は次の表1で表されるように、互いの間に共通点が見られる⁶。

（表1）次元形容詞の共通点

	長い／短い	広い／狭い	厚い／薄い	太い／細い
線を含む	○			○
肉付けがある			○	○
肉付がない	○	○		
平面を含む		○	○	

音声を表すときも、次元形容詞は音声の線的側面、面的側面、肉付き的側面、音
全体を表すことが観察される。それは音声の時間的量（長い／短い）、音声の大小（高
い／低い、太い／細い、大きい／小さい）、音声の高低（高い／甲高い／低い、太い

6 国広（1982：156-169）参照。

／細い、厚い／ぶあつい／薄い)、音声がある基準から内部へ入る距離(深い／浅い)、音声と感覚経験者との距離(遠い／近い)、音声の水面的幅(広い／巾広い／狭い)を表すのである(例 13-32 を参照されたい／)。但し、「高い／低い」は音声の高低を表すと共に、音声の大小を表すことがある(例 33、34)。「太い／細い」は音声の大小、高低を表すが、「太い」は普通の音ではなく、声や楽器の低いことを指す(例 35-37)。そして、「厚い」は低音のことを表す(例 24、25)。

(33) 江藤は煙草をくわえ、高い足音をひびかせてこの街を歩きながら、眼に見えない法律の重さを考えていた。(石川達三「青春の蹉跎」)

(34) 人の耳の可聴範囲にやっと触れるほどの低い音の響きだ。(村上春樹「世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド」)

(35) 黒人兵は地下倉の汗をふきだす床に寝ころび、低く太い声で不思議に生ましく僕らをとらえる歌、嘆きと叫びが底にうずくまって僕らにおそいかろうとする歌をうたっていた。(大江健三郎「飼育」)

(36) その時は胡坐にした両脛を手でつぶれそうに堅く握って、胸に余る興奮を静かな太い声でおとなしく云い現わそうとしていた。(有島武郎「生れ出づる悩み」)

(37) ……柏木の導くままに、何度となく、飽かず私は試みた。顔は充血し、息は迫って来た。そのとき急に私が鳥になり、私の咽喉から鳥の啼声が洩れたかのように、尺八が野太い音の一声をひびかせた。(三島由紀夫「金閣寺」)

3.3 新古

新古を表す形容詞「新しい 古い」にも音声を形容する例が見られる。「新しい音声」は覚えのない音声(例 38)で、「古い音声」は聞いたことのある音声である(例 39-40)。

(38) (前略) 沈黙のただなかに、この母親の問いに対する疑いをいれぬ答えとし

て、室内のそこここに聞える控えめな話し声とはまったく違った、新しい声があった。(トルストイ「アンナ・カレーニナ」)

(39) 「よう。久しぶりだな」聞き覚えのある古い声。(oews.hp.infoseek.co.jp)

(40) 古い音楽が好きなんです。(村上春樹「世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド」)

3.4 視覚

(41) 僕は明るい音にみちた言葉で看護婦や少年に話しかけたいと思いながら、暫く看護婦に並んで歩いた。(大江健三郎「死者の奢り」)

(42) 井上氏はいつにもまして暗い声で答える。(www.so-net.ne.jp)

(43) 義秋は叫ぶような、黄色い声をあげた。みな色めき立って刀をひきよせた。(司馬遼太郎「国盗り物語」)

(44) 以前東京で、当時 86 歳のフランス人テノール歌手モラーヌ氏のリサイタルを聴き、彼の若々しい声と素晴らしい表現に感動したことがある。どうしてあの年齢で美しい声で歌えるのだろうか。(www.otani.ac.jp)

(45) A の母音を口の中を開けて丸い声で歌うことで、深くあたたかい声を作る。(homepage1.nifty.com)

(46) 声を出した時に、息が充分に送られていなかったり全身が共鳴に使えていなかったりしていると、薄く平たい声になり、ヴォリュームもなくなってしまう。(www.bvt.co.jp)

(47) 竪琴はにぶい音をたててこわれました。(竹山道雄「ビルマの竪琴」)

(48) 焼栗の声がなつかしい頃になった。廊を流して行く焼栗屋のにぶい声を聞いていると、妙に淋しくなってしまうと、暗い部屋の中に私は一人でじっと窓を見ている。(林芙美子「放浪記」)

(49) グローブと手が弾け、狭い控室に鋭い音が響き渡った。(沢木耕太郎「一瞬

の夏」)

- (50) あわてて母に従いて茶の間に行こうとしたとき、おい、どこへ行く！ と若い警官が鋭い声を浴びせた。(立原正秋「冬の旅」)
- (51) 千枝子は、これまでに一度だって僕にキスさせたことがない。そんなことするの嫌いよ、と言いい、少しでも強いると、だって愛しているんだからいいじゃないの、と幼い声で答えた。(福永武彦「草の花」)
- (52) 男の声ではあるが、夫よりぐっと若い声である。(「女社長に乾杯！」)
- (53) そこに充満しているのは、健康な舞台労働者の見事な食欲であり、若々しい笑い声と、汗と、網タイツに包まれた逞しい脚のパレードだった。(五木寛之「風に吹かれて」)
- (54) 「南無阿弥陀仏」と生若い声を出す。(泉鏡花「国貞えがく」)
- (55) 窓に凭れて、背中にタイプライターの速い音を聞きながら、お台場の方の煤けた空などを眺めていた。(福永武彦「草の花」)
- (56) インストールの時、CD-ROM だけ高速なので、アクセスの瞬間だけウィーンという音が瞬間だけして、その後しばらく休んで(というか本当はのんびりと展開でもしているのだと思うのだが)、それからハードディスクがまた遅い音をたてて回っている。(www.pro.or.jp)
- (57) 瑞々しい声にさわやか感があふれて (www3.vc-net.ne.jp)
- (58) テレビで繰り返されるブッシュ政権の一方向的なメッセージとは裏腹に、戦禍のバグダッドからの生々しい声が、ブログや独立系メディアを通してネット上で広がっている。(blog.digi-squad.com)

上の用例で分かるように、音声を表す視覚形容詞はまた、明暗、色、形状、時、速度などに下位分類できる。つまり、共感覚比喩的用法で、明暗(例 41、42)、色(例 43、44)、形状(例 45-50)、時(例 51-54)、速度(例 55、56)、健康(例 57、58)などを表す形容詞が音声を表す聴覚形容詞に転用するわけである。そのうち、特に取り上げたいのは、色彩形容詞と形状形容詞によるものである。色彩を表す形

容詞のうち、聴覚形容詞に転用するのは「黄色い」だけである。「黄色い声」は主に女性や子供の甲高い声を表すが、それは中国語の[黄腔]（猥褻な言葉）とか[黄鶯出谷]（鶯のようなよい声）とは全然意味が違う表現である。その由来は中国の次のようなことに関係しているのではないかと思われる。(1) [黄者中之色君之服也] (漢書律歷志上) というように、黄色は高いという意味を表す。(2) [民三歳以下為黄十歳以下為小] (唐書食貨志) というように、黄色は経験が浅い、幼稚という意味を表す⁷。そして、色彩形容詞と違って、形状形容詞「四角い」「丸い」「平たい」「鋭い」「鈍い」⁸は「四角い」を除いて、聴覚形容詞への転用例が観察される。「丸い声」(例 45) は口の中を広げて腹部から出される声である。「平たい声」(例 46) は喉から出される浅い声である。「鋭い声」は緊張感のある強い声のことであり、「鈍い声」は弱くて澄んでいない声のことである。

3.5 触覚

触覚は普通、皮膚の表面が外界のものに触れて起こる感覚をさす⁹が、その定義は人によって違うようである。狭義的には圧覚、温度感覚、痛覚を指すが、広義的には、体外の触覚、温覚、冷覚、痛覚、圧覚及び体内の筋肉、関節などの深部感覚をも含めた体性感覚を指す¹⁰。本研究では、広義的に皮膚だけではなく、筋肉が感じた圧覚なども考察対象にする。

例 59-81 で見るように、粘度を表す「ねばっこい」(例 59)、力を表す「重い」¹¹ 軽い 強い 弱い 荒い 凄まじい ひどい」(例 60-69)、痛痒を表す「痛い むず

7 『大漢和辞典』「黄」項参照。

8 『分類語彙表』「3.182 形」参照。

9 内村 (1980 : 242) 参照。

10 村田 (1989) 参照。

11 「重い 軽い」類の形容詞を次元形容詞と呼ぶ説もあろうが、本稿では国広 (1982) に従い、次元形容詞から外すことにする。

痒い」(例 70-73)、硬度を表す「硬い 柔らかい」(例 74)、温度を表す「熱い 冷たい 暖かい 涼しい ぬるい」(例 74-81)などと、殆どの触覚形容詞は聴覚形容詞に転用する用例が考察される。触覚的表現で音声を表すものなので、すべて表現主体の主観的な比喩表現といえようが、しかし、聴覚はもともと鼓膜が振動している感覚であるので、触覚から聴覚への用いられ方は当然考えられよう。

そして、日本語聴覚形容詞の触覚的表現では、軽い音声、暖かい音声、涼しい音声、熱い音声、柔らかい音声が喜ばれるようである。

(59)「おめえみてえな奴にゃお巡りの必要はねえさ」給仕は、バター・ケーキみたいにねばっこい声で、マンハッタン・カクテルの中のサクランボみたいな目をして言った。(オー・ヘンリー「警官と讚美歌」)

(60) 賢一郎は重い足音をたてて、階段をあがって行く。(石川達三「青春の蹉跌」)

(61) 周りの賢者たちが一斉に大きな重々しい声で唱和した。(www.din.or.jp)

(62) ふいに拍手がおこり、社員がみんなぼくの顔を見ていることに気がついた。あわてて頭を下げると、社員の間から軽い笑い声がおきた。(椎名誠「新橋烏森口青春篇」)

(63) やがて揚蓋を太い槌で殴りつける音がそれに交った。その重く強い音が空腹にかりたてられる僕の胃に響き、胸をうずかせた。(大江健三郎「飼育」)

(64) 又、どうかするとそんな風の余りらしいものが、私の足もとでも二つ三つの落葉を他の落葉の上にさらさらと弱い音を立てながら移している…。(堀辰雄「風立ちぬ」)

(65) 残念なのは、ミッフィちゃんの声が長沢彩ちゃんじゃなかったこと。あの弱々しい声じゃないと今ひとつ気分が出ないなあ。(blog.livedoor.jp)

(66) 彼は力を加え、眉の間に縦皺の寄っている京子の顔に、荒い声を浴びせかけた。(吉行淳之介「砂の上の植物群」)

(67) 建物の屋根に打ち付ける荒々しい雨音 (www.ne.jp/asahi)

(68) その未明、為体のわからぬ轟音で城木は目覚めさせられた。あたかも魚雷

でも喰ったような凄まじい音響である。(北杜夫「楡家の人び」)

- (69) 材木の中のふといやつが一本たおれかかって、それにつれてまた何本か、ひどい音をたてて、もろに折りかさなつてたおれて来て、ものすごく地ひびき打った。(石川淳「処女懐胎」)

- (70) その空間的表現が CS でもかなり良い感じでした。低音に支配されず、かといって DSP500 ほど枯れた音でもなく、耳が痛い音もでない丁度良い音質。
(tomoi.s43.xrea.com)

- (71) 金属に打ちつける痛々しい雨音も、木をふんだんに使う弊社オリジナルのテラスでは優しく包み込むような音に変えてくれます。
(www.hodaka-kikaku.com)

- (72) こうして、一晩じゅう、訴えるような、痛ましい声で鳴きつづけていた。(モーパッサン「女の一生」)

- (73) 少しハスキーな、甲高い男の声だった。聞き覚えがあるような、ないような、なんともむず痒い声だ。(www.ops.dti.ne.jp)

- (74) オーディオ機器などの感想で音を表現するときの参考にしていただければ幸いである。まずは最も印象的な部分から。硬い・柔らかい・冷たい・暖かい音の 4 つである。＜音が硬い＞とは金属的な高音域が目立っている場合で＜音が柔らかい＞とは逆にそれが控え目であることをいう。＜音が冷たい＞とは冷水に浸かったような瑞々しい感覚であり＜音が暖かい＞とは陽の下にいるような若干、膨らみのある感覚をいう。硬くて冷たい、柔らかくて暖かい、硬くて暖かい、柔らかくて冷たい、などと組み合わせることで表現の幅が広がる。(www.geocities.co.jp)

- (75) 「聞こえました。恋の満足を味わっている人はもっと暖かい声を出すものです。然し……然し君、恋は罪悪ですよ。解っていますか」(夏目漱石「ころ」)

- (76) 吟子の声はよく透る涼しい声である。(渡辺淳一「花埋み」)

- (77) 「ウィルさんって」キツイ視線と寒い声で言うと、少し間を置き「そんな人だったんですね」ウィルをにらんでいる。(www.myprofile.ne.jp)
- (78) このうだるような暑さの時は、あの冬の身を切るような寒さを願い、凍えつきそうな寒さの時は、蝉が暑い暑い声を出して鳴く真夏を懐かしめます。(www2.odn.ne.jp)
- (79) 冷たい声なのに、熱い演技だったので、印象に残りました。(www.pure.ne.jp)
- (80) 熱い声に応え販売へー大和高田の池田遺跡(奈良新聞 2004 年 2 月 26 日)
- (81) 細く微笑むような息が聞こえて、思わず出かけたぬるい声を閉じ込めた。(www.geocities.co.jp)

3.6 味覚

味覚形容詞で音声を表す用例は、喜ばれるものもあるし、そうでないものもある(例 82-88 を参照されたい)。

- (82) 甘い声のブルースシンガーなんか聴きたくない。ブルースは、から〜い声で聴きたい。ちびまる子ちゃんの「踊るポンポコリン」を歌ってる BB クイーンズの近藤房之助さんの声だってめっちゃシブイ声である。(www.portnet.ne.jp)
- (83) 半分近くとり終わった時に、中年の女性が 1 人コピー機の近くに立った。いきなりその人はこう言った。「あと何枚とるの？」鼻にかかった甘ったるい声だった。ぞんざいなものいいに、年下... (www.hi-ho.ne.jp)
- (84) タニトを犠牲にしたところで先に進もうとするシルバーインフェルノだが、ベルゼブブがなお塩からい声を出して前に立ちふさがる。(www.geocities.co.jp)
- (85) それと、このひとの、ちょっと鼻にかかった甘く酸っぱい声の魅力については、以前にも「スローまたはミディアムの曲でその魅力を最大限に発揮

する」なんてことを書いたことがあります、本作を聴いて、その感をますます強くしました。(unanas.hp.infoseek.co.jp)

(86) 遠くのものはいつまでも／ひとなつこくついてくるのに／知らんぷりして
行っちゃうのね／近くのは／光る窓から車外を見ながら／酸っぱい声
で君がそう言う (homepage2.nifty.com)

(87) そういう意味で言ったんじゃない、と苦い声で答えた。僕なんか駄目です。だいたい僕は神を信じていませんからね。(福永武彦「草の花」)

(88) 素人にしてはうまい声だなー。(www.globetown.net)

普通、喜ばれるはずの「甘い味」は度が過ぎると好かれなくなる恐れがある¹²。それと同じように、「甘い声」(例 82) がいいであろうが、「甘ったるい声」(例 83) はあまり喜ばれないようである。好みによっては「辛い味」が好かれたり嫌われたりするが、聴覚形容詞に転用する場合も同じようである(例 82)。但し、「塩辛い醤油」を飲み過ぎると死ぬかもしれないので、「塩辛い声」(例 84) が好きなものはいらぬだろう、ちょっと疑問に思われる。「甘く酸っぱい声」(例 85) が魅力的であろうが、「酸っぱい声」(例 86) はやはりつらいものである。「苦い味」は喜ばれるような味ではないが、「苦い声」(例 87) もまた喜ばれるような声ではない。「渋い声」(例 82) は「渋い色」「渋い俳優」という視覚的表現と同じく、趣があり、好かれる声である¹³。「うまい声」(例 88) は「うまい味」と同じようにいいものである。

このように、基本味覚形容詞「甘い 酸っぱい 辛い 苦い 渋い うまい」はすべて聴覚形容詞に転用する用法が見られ、そして、聴覚形容詞としてのイメージが味覚形容詞のそれとほぼ同じだといえよう。

3.7 全身の感覚

12 味覚形容詞「甘い」について詳しくは頼(2002)を参照されたい。

13 「渋い」の意味構造について詳しくは頼(2004)を参照されたい。

全身の感覚を表す形容詞には「だるい 眠い 苦しい ひもじい」があるが、それらは全部、音声を表すことがある。例 89-96 で見るように、どれもいい感じがするものではない。

(89) 電話の鰻夫はいつもだるい。だるい声を出してあまり喋らない。

(www.geocities.co.jp)

(90) 奥田民生の気だるい声が切なげな歌詞にぴったり。S K Aの王道は安心して聞けるが隠れたメッセージを感じ取れるようになると違った世界が。とにかくクルマで聞くのに最高です。(www.yasui-kaimono.com)

(91) 男:もしもし(眠い声で) 女:もしもし、まだ寝ていたの? だめよ、もうちょつとで12時まるわよ。(japanese.human.metro-u.ac.jp)

(92) 高い熱が出て、「ウ・ン、ウ・ン」って苦しい声出してる。(bbs.jp.aol.com)

(93) 気になるのは、スピーカから流れる、聞き苦しい音。(www.wtech.co.jp)

(94) 扉は一、ぎいいと重苦しい音を立ててゆっくりと開き、私の前にぽっかりと大きな口を開けました。(page.freett.com)

(95) 鳴いているのは雄だけで雌は鳴かない。そう、せみの鳴き声は求愛行動なのである。大人になった彼らは、命の続く限りプロポーズし続けるのだ。だからせみが鳴いているとき「暑苦しい音だなあ」と思うのではなく、「早く相手を見つけろよ」と温かく見守ってやって欲しい。

(www-cc.gakushuin.ac.jp)

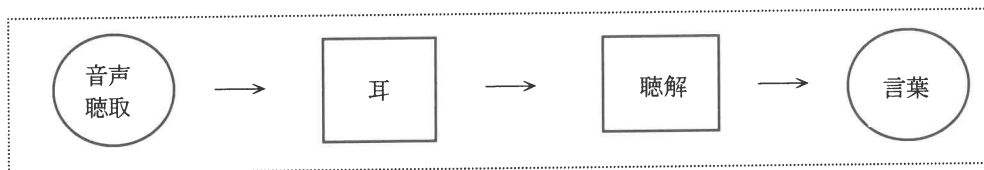
(96) 夜になると、1匹の白猫がひもじい声で鳴きながら、あけぼの館に現れるが、心を鬼にして追い払う。(www.marine-iguana.com)

3.8 心理

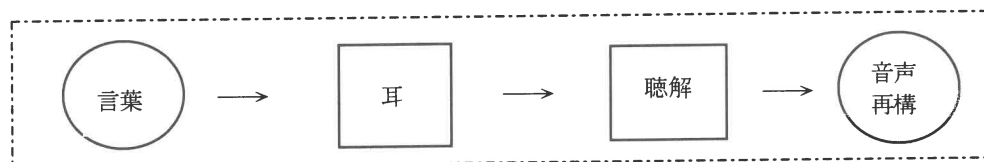
音声は文字と同じようにコミュニケーションの道具である。音声の抑揚で発話者の気持ちや意味が分かる。但し、音声を聴いてその意味を判断して表現したり、理

解したりするのは聴覚経験者の感じによるものと思われる（図 1、2 参照）。

（図 1）言葉による音声の表現



（図 2）言葉による音声の理解



心理を表す形容詞が聴覚表現に転用するのは、つまり、聴覚経験者の気持ちや意味の表れである。2 で述べた聴覚形容詞に転用する心理的表現はまた、次のように分けられる。①喜び（小気味よい音 心地良い音 快い声 楽しい音楽 喜ばしい声）、②好感（あどけない声 いい声 勇ましい音 男らしい音 面白い音色 趣きふかい音楽 可愛い声 可愛らしい声 親しい声 すばらしい声 たくましい声 正しい音 懐かしい声 やさしい声 よどみのない声）、③美感（媚めかしい声）、④安心（頼もしい音）、⑤不安（覚束ない声 心許ない声 ぎごちない声 せわしない声 途方もない声）、⑥哀愁（哀調ふかい声 哀れっぽい声 悲しい声 切ない声 物憂い音）、⑦寂寥（さびしい声 さみしい声 わびしい声）、⑧恐怖（怖ろしい声 おぞましい音）、⑨嫌悪（情けない 陰気くさい声 うっとうしい声 押しつけがましい声 気味わるい声 素気ない声 憎らしい音）、⑩昂奮（あわたたしい声）、⑪情熱（熱っぽい声）⑫誇張（ものらしい声 物々しい声）、⑬慎重（用心深い声 遠慮ぶかい音）、⑭嚴重（厳しい声 きつい声 ようしゃない声）、⑮尊敬（えらい声）、⑯平気（さりげない声 なにげない声 忍耐強い声）。

こういう聴覚経験者の心理表現は人によって異なることが考えられるので、以下の例 97-113 のような心理的音声表現は、聞き手によって違う可能性が多くある。つ

まり、これも一種のファジーな表現だといえよう。

- (97) オペラからポップス、ジャズまで、楽しい音楽の季節でもある。(朝日新聞
2003年12月9日)
- (98) 懐かしい「音楽」を届けたい。(mytown.asahi.com)
- (99) 勇ましいかけ声とともに「バリバリ」と竹がぶつかって割れる音が夜空に響いた。(www.asahi.com)
- (100) 身にしむやうな媚めかしい声に大屋根の方へと啼いて行く。(樋口一葉「われから」)
- (101) また蓋をするとき、しっくり寸法の合ったその蓋が、ぴしっと、たしかな封印のように、たのもしい音をたてた。(石川淳「処女懐胎」)
- (102) 私は覚束ない声を出して、何と云う事もなくこう問い返しました。(芥川龍之介「邪宗門」)
- (103) 「もう一度！ もう一度よ」と少女は悲しい声を出した。(梶井基次郎「雪後」)
- (104) 広い道には車も少なく、風が吹き抜けると、紙屑が舞い上がり、紙コップが寂しい音をたてて転がった。(沢木耕太郎「一瞬の夏」)
- (105) 「普請中なのだ。さっきまで恐ろしい音をさせていたのだ」(森鷗外「普請中」)
- (106) 突然、基一郎はさながら幼児が駄々をこねるように、いかにも情けない声をあげて立止ってしまった。(北杜夫「楡家の人びと」)
- (107) 彼は不意に背後にあわただしい足音を聞いた。(ドストエフスキー「罪と罰」)
- (108) あいつらひどいことをやりますねえ、と教員は感情の高ぶりに熱っぽい声でいった。(大江健三郎「人間の羊」)
- (109) 物々しい声を出してこう云った。(芥川龍之介「芋粥」)
- (110) トムは、つづけて二度口笛を吹いた。下からも同じ口笛がかえってきた。それから用心深い声がきこえてきた。(トウェイン「トム・ソーヤーの冒

険」)

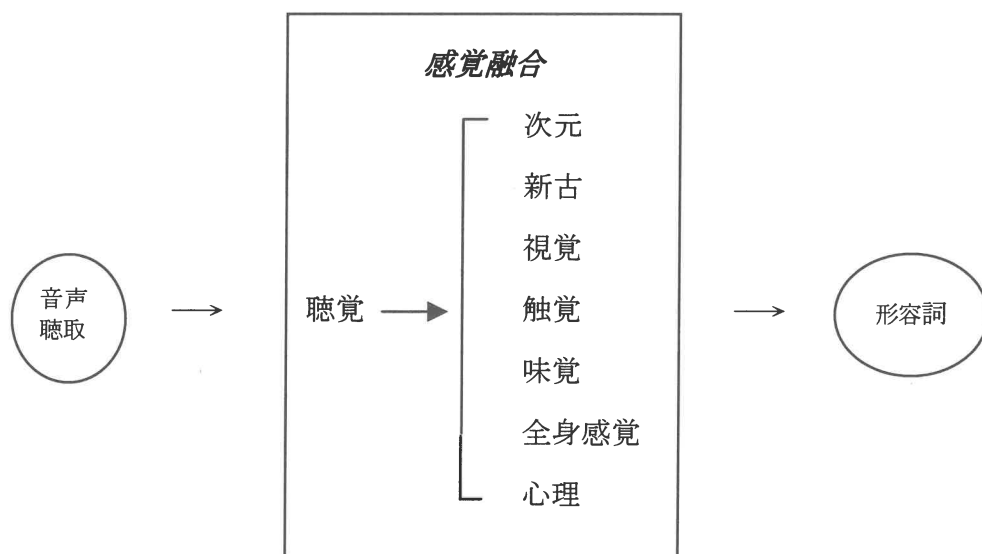
- (111) 秋田市に住む小学校の恩師からは「精一杯がんばれ」と、往時の厳しい声が聞こえそうな一行が添えられてあった。(www11.ocn.ne.jp)
- (112) (夢) 中学と高校の友だちに同時に会って、至極御満悦な私だったのですが、高校1年の時の教室の前を通った時、中からえらい笑い声がしたので中を覗いたら、今度は大学の時の同窓会をやってました。(www.linkclub.or.jp)
- (113) 千代子はさりげない声のなかに十二分の皮肉をこめて言った。(北杜夫「榆家の人びと」)

4、聴覚形容詞理解のメカニズム

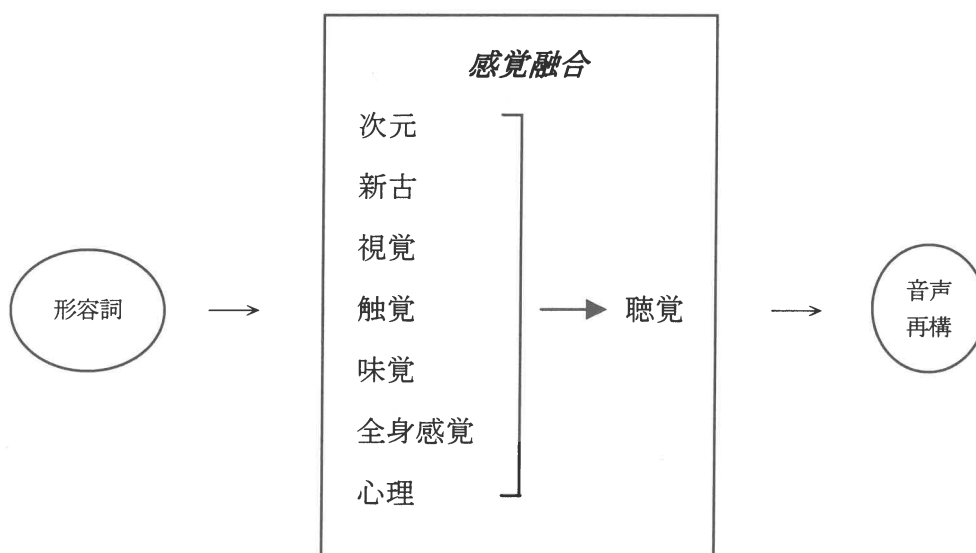
形容詞では音声の何が表されるのであろうか。上に挙げられた例を通して見てみると、形容詞が音質、音高、音勢などを表現することが分かる。基本聴覚形容詞の「けたたましい やかましい うるさい 姦ましい 騒がしい 騒々しい」は音質を表すものである。その表現・理解過程は(図1、2)のようである。では、基本聴覚形容詞以外の形容詞(つまり、非基本聴覚形容詞)による表現・理解過程はどうなるのか、考えてみよう。

音高、音勢は上述したように、次元、新古、視覚、触覚、味覚、全身の感覚、心理を表す形容詞による転用や共感覚比喩的用法で表されるが、その表現過程と理解過程を次のように図示することができよう(図3、4参照)。

(図 3) 非基本聴覚形容詞による音声の聴取・表現過程



(図 4) 非基本聴覚形容詞表現による音声の聴取・理解過程



例えば、「低い声」という表現を例として考えてみよう。ある表現主体がある声を聞いてその声がある基準より下だと判断した場合、音声と次元との融合が成り立ち、「低い」という次元形容詞が選ばれ、「低い声」という表現ができるのである。逆に、ある経験者が「低い声」と聞いたら、「低い」がある基準より下だと理解した場合、

次元と聴覚との融合が成り立ち、「低い声」という表現の意味が理解されるのである。その表現・理解過程では、次元の意味が抑制され、次元表現による聴覚形容詞ができるわけである。

音声における、視覚、触覚、味覚の表現による共感覚比喩的用法も同じことである。つまり、視覚、触覚、味覚の場合はそれぞれ、視覚、触覚、味覚の意味が抑制され、視覚、触覚、味覚表現による聴覚形容詞ができるようになるのである。

5、聴覚形容詞の特徴

本稿では、音声を表す形容詞の特徴について①転用方向の不均衡、②感覚拡張の制限、③排他志向と自己規制志向、④ファジー性、⑤性差 という特徴を取り上げて分析して見たい。

5.1 転用方向の不均衡

上述したように他の分野のものから聴覚表現に転用する例が多く考察されるのに対して、基本聴覚形容詞による他の分野への転用がそれほど多くない。例 114-119 のように、基本聴覚形容詞で音声を表さない表現は「手続き」、「世間の目」「礼儀」「ネットニュース」「絵」「生き方」に関するものであるが、それらは殆ど複雑か厳しいという意味で用いられる。

(114) 街の外へ出てまた入るとなると、いろいろまたうるさい手続きが待っています。(www2m.biglobe.ne.jp)

(115) こんど転勤してもらう地域は田舎で、世間の目がうるさいから、オープンカーなんかで行っちゃいかんぞ (www2u.biglobe.ne.jp)

(116) 外国人が主であって、服装や礼儀がやかましいそうだ(後略)(谷崎潤一郎「痴人の愛」)

(117) ネットニュースが騒がしい (writer.gozans.com)

(118) 鉄斎の絵は騒がしいと評したそうである。(小林秀雄「鉄斎」)

(119) 前半生の鮮烈で騒々しい生き方とちがって、その人生は砂漠の砂にうもれて沈黙している。(www.kiryn.net)

基本聴覚形容詞による他の分野への転用が少ないのは、そのマイナス志向に関係するのではないかとと思われる。「うるさい」は「うら(心)さし(狭し)」という語源で、同じ事が何度も繰り返されるので、いやになり心を閉ざしたく感じる状態を指す¹⁴。その類似表現の「けたたましい やかましい 姦ましい 騒がしい 騒々しい」も同じような傾向にある。意味範疇が狭いゆえ、その転用も限られるようになる。

5.2 感覚拡張の制限

聴覚は感覚の発達過程では高次の感覚として発達したもののなので、他の感覚を表す共感覚とする比喩表現が存在しない¹⁵といわれる。勿論、「絵は騒がしい」(例 118 参照)、「騒々しい静物たち」(書名、篠田 達美・建畠 哲著、新潮社、1993)というような表現も見られるが、本研究の考察では、聴覚表現から他の感覚表現への拡張には制限があるといえる。そして、視覚、触覚、味覚の表現から聴覚表現への共感覚的比喩用法は多く見られるが、嗅覚表現からの例は見当たらない。つまり、聴覚と嗅覚との間に拡張現象が存在せずに、「臭い声」というような表現もないし、「けたたましい匂い」というような表現もないわけである(表 2 を参照されたい)。

14 『日本国語大辞典』第二版「うるさい」項による。

15 山梨(1988: 57-64) 参照。

(表 2) 聴覚に関する共感覚的比喻

感覚の拡張	用 例
聴覚 → 視覚	騒々しい静物
聴覚 → 触覚	(用例なし)
聴覚 → 味覚	(用例なし)
聴覚 → 嗅覚	(用例なし)
視覚 → 聴覚	明るい音、黄色い声、丸っこい声
触覚 → 聴覚	冷たい声、柔らかいメロディ、耳が痛い声
味覚 → 聴覚	甘ったるい声、渋い歌声、苦い声
嗅覚 → 聴覚	(用例なし)

5.3 排他志向と自己規制志向

音に対してマイナス評価をする傾向にあるのは、騒音を嫌う日本国民の島国根性の現れだと指摘されている¹⁶。芭蕉の「古池や 蛙飛び込む 水の音」「静かさや 岩にしみいり 蟬の声」も詩仙堂で有名な「ししおどし」の小気味よい音で表現しようとするのも、音自体より環境の静かさそのものである。そういう静けさこそ大和人が求める境地ではなかろうか。そして、静かさをよしとする心理には排他的要素が含まれるといえよう。「残したい音風景 100 選」として日本で 1996 年に選ばれたものの多くは、近い音より遠い音のほうが多いようである¹⁷。それは、近くて大きい音を聞きながら忙しく生活している者にとっては、遠いところから聞こえてくるかすかな音のほうがいい、ということを物語っているであろうが、それはまた、前述した静かさをよしとする心理に通ずるところがあるのではなかろうか。言葉はその表現主体の心理を反映するものである。それ故に、音質を表す日本語の基本聴

16 森田 (1989 : 124) 参照。

17 山下 (2002 : 128) による。

覚形容詞にも排他的要素が入っていると判断されよう。

排他的要素が含まれる音質を表す日本語の基本聴覚形容詞は一方、自己規制志向か自己抑制志向であることも考えられよう。それは、人の邪魔になるような、「うるさい」「姦しい」「けたたましい」「騒がしい」「騒々しい」「やかましい」と思われる音声を出さないからである。その点、自分の言いたいことをいつも遠慮なく述べる中国語話者とは大分違うようである。

5.4 ファジー性

音質は多様多彩のはずであるが、日本語における音質を表す形容詞はそれほど多くないようである。言い換えれば、日本語の基本聴覚形容詞は細分化していないことである。例えば、「うるさい声」とか「騒々しい音」とか言われても、具体的にどんな音声のことなのか分からないのが普通である。それはつまり聴覚表現の曖昧なところである。周波数の単位「ヘルツ」で表されない限り、音声の具体的な大小をキャッチしかねるが、転用か共感覚比喩的用法による表現になると、もっと理解しにくいことが想像されよう。そして、他の感覚モダリティに属する形容詞と同じように、そういうファジー性は、聴覚形容詞の特質の一つである¹⁸。

5.5 性差

普通、音声を表す日本語聴覚形容詞には次の例 120、121 のように性差がない。

(120) 講義がはじまった。どこで講義が私の問題に急転するかと、私はそれのみ待った。耳をそば立てた。老師の甲高い声がつづいていた。老師の内心の声は何一つきこえては来なかった。……（三島由紀夫「金閣寺」）

(121) 千枝子が、さっと立って走り出した。待ってくれよ、と叫びながら、僕もそのあとを追って走った。千枝子は甲高い声で笑った。（福永武彦「草の花」）

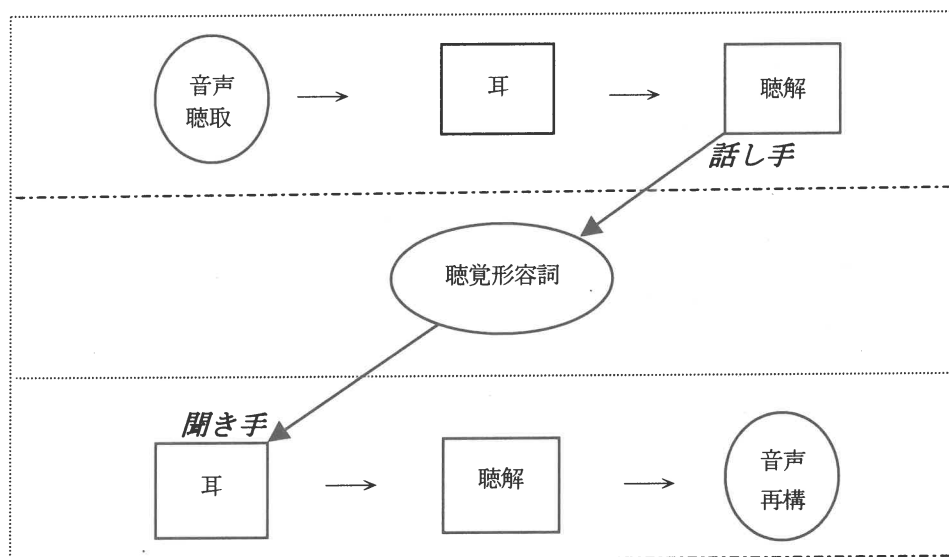
18 色彩形容詞と味覚形容詞のファジー性については、頼（2003a、2003b）を参照されたい。

しかし、「黄色い」は男性、特に大人の男性の声を表す例が見られないようである。つまり、「黄色い声」は女性か子供の声の表現に限られる。そして、男三人ではなく、女三人寄れば姦しい、という表現は、活発に行動する若い娘のことをお転婆というのと同じように、まさに日本社会の男尊女卑志向の表れなのである。そして、「黄色い声」や「姦しい」のような性別による違いは、一種の性差表現でもある。

6、結び

人間は言語を介して他者とのコミュニケーションをしている。人の言語を見たり聞いたりしてその意味を理解するのは人間活動においてとても重要な営みの一つであるが、前述したように、ファジー性があるゆえ、聴覚形容詞による伝達過程（図5 参照）において、話し手の発話意図と聞き手の理解結果にずれが生じることもある。

（図 5）聴覚形容詞による伝達過程



そして、日本語教育の立場から見た場合、日本語の聴覚形容詞を理解するのは台湾人学習者にとってそれほど難しくはない、と思われがちであろうが、音声に対する取り入れ方が言語によって違うので、要注意である。中国語話者は日本語でしゃべると別人のように優しく聞こえるが、日本語話者は中国語で喋ると怒っているように聞こえる、という指摘がある¹⁹。それは、それぞれの言語の性質によるものであろう。そして、その言語間の性質の違いによる言語表現の相違は当然考えられる。聴覚形容詞の表現においても同じことである。中国語感覚で日本語聴覚形容詞を理解しようとするのは危険である。特に、石川啄木の「ふるさとの訛りなつかし／停車場の人ごみの中に／そを聴きにゆく」で見るように、人は自分の言語に親近感を持つが、日本語学習における聴覚形容詞習得には、そういう自分の言語に対する親近感を抑えて、日本語感覚で理解しようとする努力が必要である。

用例出典：

『新潮文庫の 100 冊 CD-ROM 版』東京：新潮社、1995
インターネット上公開されているホームページ（検索エンジンは google）

参考文献：

内村直也『五感の言語学』、京都：PHP 研究所、1980
北原保雄 他『日本国語大辞典第二版』、東京：小学館、2000-2001
楠見孝「共感覚的メタファの心理・語彙論的分析」『記号学研究 8』、東京：日本記号学会、1988（『国語学論説資料 25-1 再録』）

19 東呉大学日本語学科修士課程日本人留学生谷瑞穂さんによる。

- 国広哲弥『意味論の方法』、東京：大修館書店、1982
- 国広哲弥「五感を表わす語彙—共感覚比喩的体系」『月刊言語 18 卷 11 号』、東京：大修館書店、1989
- 国立国語研究所『分類語彙表』、東京：秀英出版、1964
- 伍鉄平『模糊語言學』、上海：上海外語教育出版社、1999
- 中村明『感覚表現辞典』、東京：東京堂、1995
- 飛田良文・浅田秀子『現代日本語形容詞用法辞典』、東京：東京堂、1991
- 村田忠男「さわることば—ウルマンのデータを中心に」『月刊言語 18 卷 11 号』、東京：大修館書店、1989
- 諸橋轍次『大漢和辞典』、東京：大修館、1960
- 森田良行『日本語をみがく小辞典 形容詞・副詞篇』、東京：講談社、1989
- 山下柚実『五感生活術』、東京：文芸春秋、2002
- 山梨正明『比喩と理解』、東京：東京大学出版会、1988
- 山梨正明『認知文法論』、東京：ひつじ書房、1995
- 吉田金彦『語源辞典形容詞編』、東京：東京堂、2000
- 頼錦雀『和語擬音語擬態語の研究』、台北：東吳大学、1991
- 頼錦雀「從感覺形容詞看日語的語言文化—以色彩形容詞為例—」
「淡江大學兩岸教學研討會」2002
『兩岸教學研討會論文集』、台北：淡江大學、2003a
- 頼錦雀「日本語味覚形容詞の研究」「東吳大學日語教學國際會議」、2002
『日語教學國際會議論文集』、台北：東吳大学、2003b
- 頼錦雀「味覚形容詞『渋い』の意味構造」『東吳外語學報第 19 号』、台北：東吳大学、2004
- 藍燈編輯部『中文辭源』、台中：藍燈文化事業、1983